

自然に暮らす

遊んで、
学んで、
楽しんで!

Sharing Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2015
VOL.

11



木の 思いを汲む

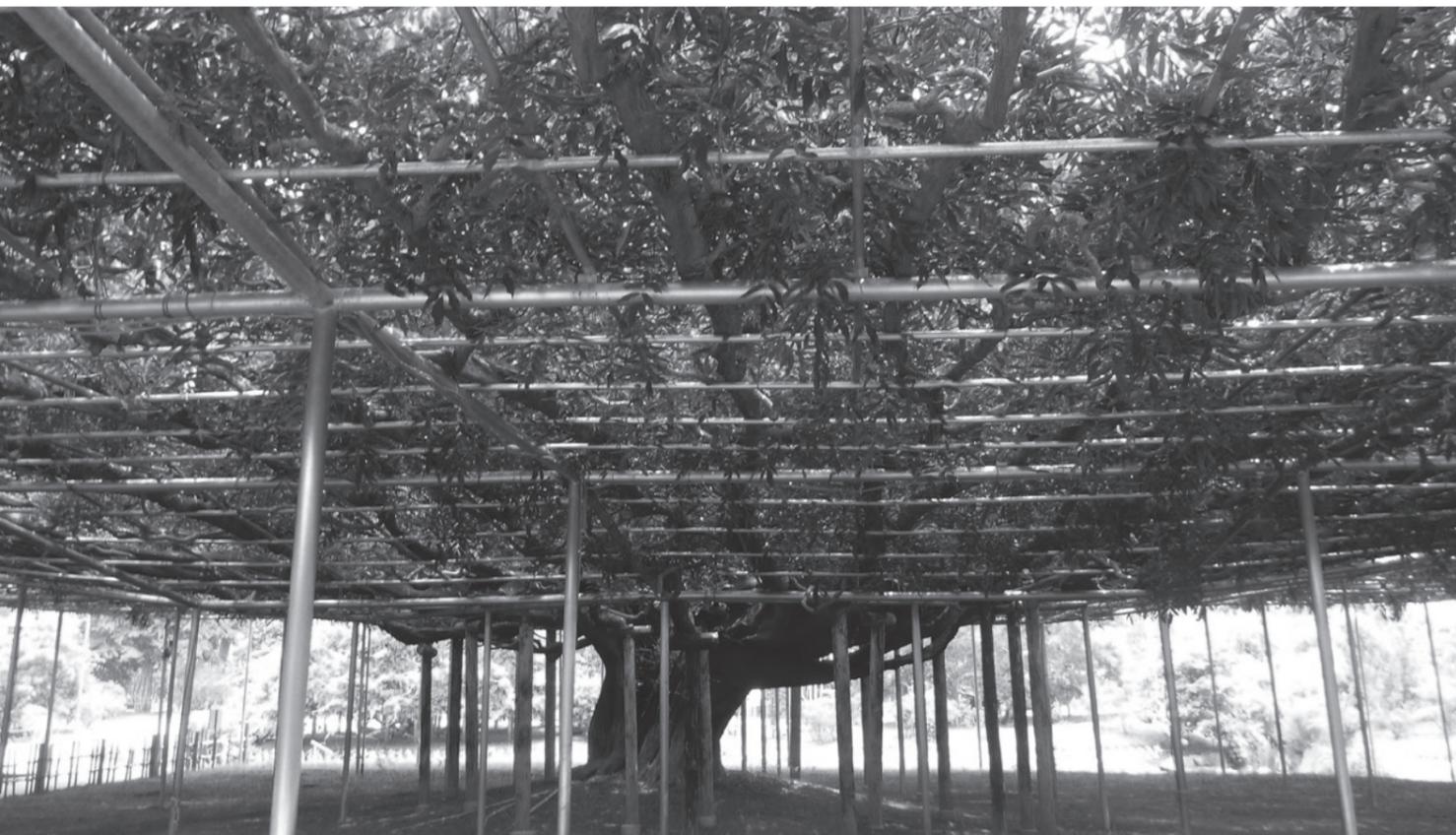
樹木医が語る
動かぬ命の鼓動

<http://www.naturegame.or.jp/>



自然に寄りそう 未来につなぐ
公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会





1996年に移植され、今や世界に名を馳せるようになった
栃木県『あしかがフラワーパーク』の大フジ。

樹木医が語る
動かぬ命の鼓動

数百年の命と

向き合う

塚本さんが、フジの古木を移植したのは1996年。すでに20年のときがたちます。そして大フジは今も毎年春になると、見事な花をつけ、年間100万人もの人が訪れるフラワーパークの顔として人びとを魅了しています。

いた木は、新たな土地にしっかりと根を降ろし、今やその勇壮は世界に知られるものとなりました。アメリカの放送局CNNが選んだ『2014年世界の夢の旅行先10か所』に堂々と名を連ねたのです。その間塚本さんも各地を訪れ、多くの木の移植を手がけました。これまで「この木は動く！」と思った木は、1本も枯ら

誰もが出さなかった
300畳以上に枝葉を広げたフジの古木の移植。
それをやり遂げ、古木に新たな居場所を与えたことで知られる
樹木医・塚本こなみさん。
数百年、千年という命を扱う毎日のなかで感じた
「自然の形」を知りたくて、塚本さんを訪ねてみました。



木々の代弁者
【樹木医】
塚本こなみさん

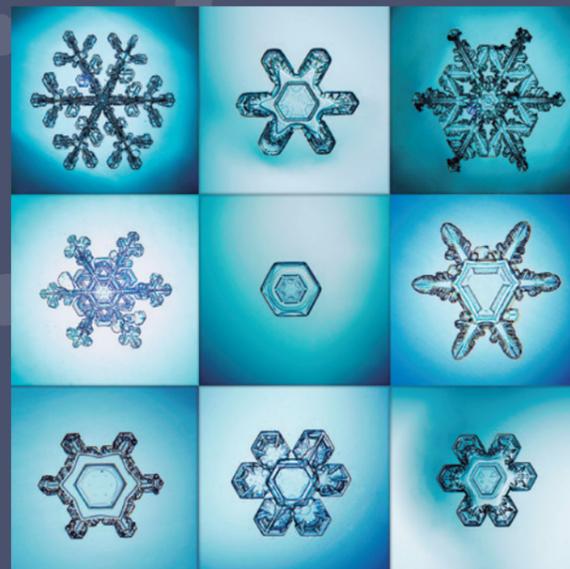
造園業を営むご主人の影響で造園家に。1992年、日本で女性初の樹木医となり、全国の巨樹や古木の治療・移植に当たる。現・静岡県『はままつフラワーパーク』理事長。

インタビュー／編集部・伊東久枝
文／伊東久枝

自然をまるかじり

No.11

雪の結晶



雪の結晶は
ひとつひとつ形が違う。
そう知ってから
雪を見る目が少し変わった。

降り落ちる雪を
黒い布や板にキャッチして
マイクロスコープ*でのぞいてみる。
これは「スノーウォッチング」と呼ばれる
雪の結晶の観察法だ。

こうして雪を見てみると
白い粒としか見えなかった雪が
六角型の凛とした美しい結晶に変わる。
自然がつくり出す
繊細な手仕事に心を奪われる瞬間。
「恐れ入りました…」
そんな言葉が心に浮かんだ。



*アウトドア用の小さな顕微鏡

「シェアリングネイチャー」
それは、人が自然を尊重し
共生していく社会のキーワード。
公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会は
「自然と遊び、自然から学ぶよろこびにあふれた生活」
—をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

Sharing SN Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2015 VOL. 11 12月号 冬

contents

自然をまるかじり	2
特集 ●木の思いを汲む	3
イベントレポート	7
被災地復興支援情報	7
News	7
自然が先生! ●世界は、聴こえぬ音に満ちている!	8
ネイチャーゲームで体験しよう! (サウンドマップ)	8
SNLな仲間たち ●福井県・林 昌尚	10
プレゼント	10
ジョセフ・コーネルの課外授業 ●石に話しかけるのは…心地悪い?!	11
四角友里 ●なんにもしないアウトドア	12

編集後記

米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル著の新刊本『The Sky and Earth Touched Me』を当協会が翻訳出版することになりました。この本はまさに本誌のテーマと同じく「自然を感じながら暮らす」ヒントが満載。来年9月に出版予定、乞うご期待ください。あわせて、ネイチャーゲーム普及30周年を記念し、来年10月にコーネルさんを招いてシンポジウムなどを企画中…お楽しみに! (佐々木)



生命力を感じる木は、必ず動きまわります。

するよう移植先に元の場所の土を運び入れ、東西南北を以前同様に合わせて植え込み、細心の注意を払って、準備から事後の手入れまでを行いました。その間、あらゆる未知との戦いの連続でした。

「木は外皮の内側数ミリの層で細胞分裂をしているため、そこが生命線なんです。ところがフジは外皮が非常に柔らかく、少しでも傷つけるとその木の血管、とも言える部分が断ち切られて、枯れてしまうんです」

そこで、幹を傷めないようにクレーンで木を持ち上げるときには、支える部分を石膏で固めて保護しました。これは人間が骨折をしたときに用いるギプスがヒントになったそう。傷口の腐りの進行を緩やかにできた墨の塗布剤の考案は、史跡から見つかった木簡が腐っていないことから思いついたといいます。

造園業者の間で「フジの移植は根元徑

していない」という塚本さん。まぎれもなく、木の移植のエキスパートです。しかし、塚本さんにとっても大木の移植は簡単なことではありません。とくにフジは困難を極めた木。尽くす手がなくなり、フジに「どうか教えてほしい」と尋ねた日が何度となくあったそうです。

ただか数十年の命が 悠久の命を、動かす

「フジは繊細な木で傷つくところから腐り、何をしてもとまらないんです」

古木の移植を引き受けた当時、フジの移植は未経験だった塚本さん。日々無我夢中でフジと向かい合っていました。

多くの木は、枝などを切ると外皮が盛り上がり上がってきて、ちょうど人間でいえばかさぶたができて傷口を治すように、切り口を塞いで腐りを食い止めます。と、

ころがフジはそれをしない。傷口からどんどん腐っていつてしまう。殺菌塗布剤とされるものをいろいろ試しても止まらない。万策つきてフジに「どうしてほしいの？」と聞いたとき、ふと見えたものがありました。

「フジが自ら捨てていたんです。フジは傷ついた部分を治さない。傷を治すことに労力をかけず、腐っていない部分から新たな芽を出すのです」

それは、命のメカニズムに気づいた瞬間でした。

「フジは手入れ次第で、500年も千年も生きる木。ただか数十年しか生きていない私がなんとかしよう…なんて気持ちで向かってもダメなんです」と、塚本さんはいいいます。そして、謙虚な気持ちで木に向かい合ったとき、答えが自ずと出てくるのだそうです。

「どんなに優秀な樹木医であっても、

60センチまで」といわれていた当時、根元徑が100センチを超える木の移植は前例がありませんでした。すべては塚本さんが日々の格闘のなかで見いだしてきたものです。

「私があきらめたら、このフジは生きる道がない。そんな思いでやっていたいように思います」とは塚本さん。

ただ、困難を極めはしたが、ダメだと思ったことはなかったといいます。それは、最初に出逢ったときに「この木は動く！」と感じた確信にも似た思い。

「どの木も最初に見たときに、動くか動かないかが分かります。生命力を持っている木は動く。移植は根の9割を切る大手術です。それに耐えられる木であるかどうか。それは見て分かります。そして幹を触って、確信を持つ。外皮がしっかりと触っても触ってもボクボクの木は、見た目にも活力がなく、動きません」

① この木は動く！

誰も成功したことのない大移植…

枝の広がり、堂々とした幹を間近で見ると「動く！」と確信



② 1年目の春

根切り：ふじ棚縮小

15人の職人が総掛かりで1週間



切り口の腐りが止まらない… 悩む

③ 2年目の秋

2回目の根切り：ふじ棚縮小

悩む 悩む 悩む

④ 2年目の冬

棚ごと移動

幹を石膏で固めて運ぶ



骨折したヒトを参考にしましたのよ

⑤ 2年目の冬

なぜ？

悩む 悩む



やっぱり腐りが止まらない…

⑥ 3年目の春

それでも芽吹く

花房を取って、まずは回復優先…！ 開花は来年ね



⑤ 3年目の夏

「腐り」の対処法に気づく

そうだ！ 墨を使ってみよう

墨で特製の腐り止めを作った



⑦ 4年目の春

開花

味いってくれてありがとう

でもまだまだつづく



葉っぱ一枚自分ではつくれない。木の自ら治る力を信じて助けるだけなんです」木にはそれぞれ個性がある。それは30年間、ひたすら樹木と向かい合うなかで得た、塚本さんのまぎれもない実感です。それを理解せず、人間の勝手な思いで木を扱うと「木は不幸な一生を送ることになる」といいます。

「フジの移植を手がける前にクスノキの移植をしたことがあります。工事はきちんとしたのにいくらたっても木が元気にならない。どうしてなのか最初は分からなかったんですが、クスノキは「楠」と書くんですよ。呼んで字のごとく、南の地域に生息する木です。なのに、北風が当たる場所に植えてしまった。庭園のデザインしか考えずに…」

塚本さんが不幸な一生を強いてしまった木です。その後、風よけの『寒冷紗』をかけたたり、幹に『緑化テープ』という包帯を巻いたり、支えを強化したりとさまざまな方策をとり、クスノキは30年を経た今も健在です。それでも「決して素晴らしい状態ではない」といいます。

木の移植は物を動かすのとは違う

じつは、大フジの移植には、出逢ってから2年の歳月がかかっています。300畳あった藤棚の枝と根をトレイラーに乗る大きさまで切り詰め、少しでも適合へ

枝葉の症状、すべて根にあり——。これは、樹木医試験のときに教官が贈ってくれた言葉。「樹木医の仕事の9割は土壌環境を整えることです。水分量や酸素不足や、悪玉菌や善玉菌といった微生物含有量など。枝葉が枯れるとか、葉が小さい、色が悪い…それはすべて根が苦しがつている状態なんです。どこか人と似ていますね」

人の場合、根は心。根性、根幹、根気根本…。気がつけば、大切なことにはみんな「根」の字がつくとある日思ったという、塚本さん。「だから私は『心根』という言葉が大好きなんです」と笑うその顔に、3人の子どもを育てたお母さんの表情が垣間見えた気がしました。

樹木医になって知ったこと。 命の、自然のメカニズム。

数十年の命が千年の命を扱うのが樹木医という仕事。いつしか「自分の至らなさに怯え、日々木から学ぶことばかり」だという塚本さん。「私の仕事は、木の心を察すること。木が何をしてほしいのか、命が何を求めているのか…。それを問う時間を多くもつことが大切だと思います。そしてそれができるようになるには、自然のなかに出かけ身を委ねることが必要なんです」塚本さんには、治療に迷ったときに会

塚本さんがよよく愛する
「春塾山の大スギ」



樹木は、
知り尽くしたと思っても、
一生わからない存在。

ればいいのだろうという事です。でも未だ方法が思いつかない。技術も知識もない。するとスギが『いや、何もしくないよ』というんです。常に私を原点に戻してくれる存在です」

命ある物は必ず滅する。それは自然界の掟です。人の手が入らない森を歩くと、大木が倒れた後に新たな種が芽を出していたりします。それらを見て、塚本さんは「大自然の循環と素晴らしさを感じる」といいます。

「すべては大地に還っていくんです。そして本来、人もまた自然の一部なんです。すよね。多くの人は人間は特別だと思

超マニアック自然観察会
Event Report 1

2015/9/12 酒井和宏(茨城県)

「この話、まだ発表してないのでブログに書かないでください」という講師の先生は、筑波実験植物園の現職研究員。専門の異なる3名の先生から、それぞれたっぷり3時間ずつ、実物やスライドを見せていただきながらお話をうかがいました。それでもまだまだしゃべり足りない、聞き足りない、ティープな話題にどっぷりつかった2日間でした。頭の中に入ってきた膨大なパズルを、これから時間をかけて組み立てていきたいと思ひます。



全国ニシエタリング
ネイチャーの日2015
「木を抱きしめよう at 石ヶ谷公園」
Event Report 2

2015/10/18 長島進代(兵庫県)

「秋だなあ」...木々の紅葉や虫の音で感じている以上に、感覚を研ぎ澄ませることで広がる世界を体感できる1日でした。目隠しをして歩いたときの足や手に触れる土や木の感触、落ち葉のサカサという音や匂い、秋風の清涼感...今まで視覚に頼っていたことで感じられずいたものに、たくさん気づかされました。歩いたときに感じた匂いが、目で見るときにはほとんどないことにも驚きました。4歳の息子と一緒に、自然を大満喫できました！



つながろうニッポン!
2011 NATURE GAME
被災地復興支援情報

ココカラ子ども大学
「木登り博士になろう」

2015/10/31 紙谷真由美(東京都)

神奈川県川崎市で行われた「木登り博士になろう」は、福島から避難している親子を支援している「NPO法人ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト」の主催によるもの。普段、自然と遊ぶ機会がない7歳と5歳のわんぱく息子たちに、木登り体験をさせたいと参加しました。ところが、木登りは息子たちより私が夢中になり、一方息子たちは木からつり下げられたブランコに夢中。そしてネイチャーゲームでは、山の中を駆けまわって砂まみれになりながら、子どもたちはおもちゃがなくても次から次に自然のなかで何かを見つけて、飽きることなく遊んでいました。あらためて自然の素晴らしさを感じ、日頃のストレス発散にもなりました！



福島避難親子支援プロジェクト
ココカラ子ども大学
今年もやります！

福島から避難している親子を支援する団体「NPO法人ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト」が主催する自然体験プログラムを支援しています。下記イベントでスタッフ募集中！
実施日:
●10/31(土)神奈川県川崎市・黒川[終了]
●12/5(土)東京都八王子市・高尾山[中止]
●2016-1/30(土)神奈川県横浜市・つくし野[募集中]
問い合わせ先: mizushina@naturegame.or.jp

News

第26回全国ネイチャーゲーム研究大会IN北海道2016

「北の大地のめぐみと自然との共生」

全国の仲間が集まる、年に一度の大会...それが「ネイチャーゲーム研究大会」。来年は北海道の夕張が開催地です。自然と共生したアイヌの人々の生活から学び、北海道の雄大な自然と食をご堪能ください。新人リーダーのみならずも奮ってご参加ください！詳細はチラシ・ホームページでご確認ください。
●日程: 2016年6月3日(金)~5日(日)2泊3日
●会場: ホテルマウントレースイ (JR北海道石勝線 夕張駅徒歩1分)
●申込み: kenkyutaikai@naturegame.or.jp

分野別!実践事例・研究報告募集

ネイチャーゲーム・シェアリングネイチャー活動の実践事例を分野ごとに募集しています。
●分野: 1. 地域実践 / 2. 講師活動 / 3. コーディネート / 4. 学校教育 / 5. 幼児教育・保育
●応募締切: 2016年6月30日(木)
●応募方法: 所定の様式に記入し、メールで応募
●応募先: jirei@naturegame.or.jp
* ホームページから、様式ダウンロードと過去の事例・研究の閲覧ができます。

シェアリングネイチャー奨励賞発表

【指導者養成部門】
努力賞: 小崎昭一・小屋綾子・丸山峰樹(群馬県)
【普及部門】
優秀賞: 奈良市まほろばシェアリングネイチャーの会
努力賞: 福島県シェアリングネイチャー協会
長野県シェアリングネイチャー協会
*受賞理由はホームページをご覧ください。
http://www.naturegame.or.jp/news/002795.html

専門委員会報告

■指導者養成委員会—9月8日(火)
◆30周年記念事業の発行単位の確認
◆指導員報「自然案内人2016年度版」の検討
◆指導員報「自然案内人2017年度版」の検討
◆リーダー向け各種研修の検討
◆コーディネーターハンドブック改訂の検討 他
■シェアリングネイチャー普及委員会—9月17日(木)
◆シェアリングネイチャーサイトの報告と検討
◆シェアリングネイチャー普及賞の報告と検討
◆シェアリングネイチャー見本市の検討
■アクティビティ開発認定委員会—11月8日(日)
◆新ネイチャーゲームの二次審査

新ネイチャーゲームトレーナー誕生

新たに1名のネイチャーゲームトレーナーが誕生しました。今後、各地で開催されるリーダー養成講座やフォローアップセミナーで主任講師を務めます。



山下達恵(徳島県)

全国銘菓お茶っ広場開催中!

東日本大震災で被災し仮設住宅で生活している方への支援活動を継続しています。支援の方法は①地元銘菓を送る②ボランティアに行く、のいずれかです。詳細はホームページ・Facebookをご覧ください。
●開催予定: 岩手県大槌 12/20(日)、2016年2/21(日) / 宮城県雄勝 2016年3/13日(日)
●連絡先: ochakko@naturegame.or.jp facebookグループ「全国銘菓お茶っ広場」

日本シェアリングネイチャー協会
年末年始休業のお知らせ

2015年12月29日(火)~2016年1月3日(日)

人は木に心をぶつけ癒される

塚本さんは、以前テレビの仕事で小学校の特別授業をしたことがあります。そのとき子どもたちに、校庭で「自分の木」を決めて話をしてみようという提案しました。最初は「木と話なんかできない」と文句をいっていた子どもたちもなから、2週間、3週間とたつうちに「木に悩みを聞いてもらった」「運動会で2位になっ

た。ぼくの木が応援してくれた」という子が出てきました。「木を擬人化することがいいかどうかは分かりません。でも、もの言わず、ただただ自分を受け入れてくれる対象、どんなときもどんな環境にも耐えてそこに立ち続ける木に、人は心をぶつけ、癒されるんだと思うんです」と話します。そして塚本さんにとつての樹木は「知り尽くしたと思っても、一生わからないもの。人生の師匠」だといいます。

一生かけても極められないけれど、極めてみたいものと出逢えたこと...。「幸せな人生です」と、輝く目で植物を見つめる、樹木医塚本こなみさんです。

藤棚にのぼって
フジの手入れを
しているとき。
塚本こなみ

私の
シェアリング
ネイチャー

世界は、聴こえぬ音に満ちている！

森のなかにいくと人は癒される。それは木々が放つフィトンチットや酸素量、——というのが定説です。さらに音の効果があると、ご存知ですか？

森は「静か」

と思いきや

聴こえぬだけで

騒がしや

人間の可聴域、すなわち聴こえる音の範囲は20〜2万ヘルツ。さらに残念なことに、高音は年齢とともに聴こえにくくなります。

つまり私たちが聞いている音は、世界に満ちている音のごくわずか。そして生物は種それぞれに特有の可聴域をもち、多くの情報を音で受けとっています。この可聴域は、それ

ぞれの生物の生態により異なり、天敵に聴こえない音を発して仲間とコミュニケーションをとったり、周波数の低い音（声）で遠くの仲間情報や伝えたりしているのです。つまり同じ世界にいるように見えても、生きものたちはまったく違う音の世界を生活しているというんです。

私たちが静かだと感じる森のなかも海のなかも、じつはさまざまな音で満たされているわけです。音が全部聴こえたら、森はとてつもなく騒がしいのかも…

そして、この「聴こえない音」にリラクゼーション効果があるという研究が！ ライブで聞く音楽とCDで聴く曲の「感動」の違いは、デジタル化されるときにカットされる可聴域外の音による効果が大きいというのです。振動として身体を感じる音、それに人の心を癒す力がある…。音を感じる森林浴、ぜひ試してみてください。

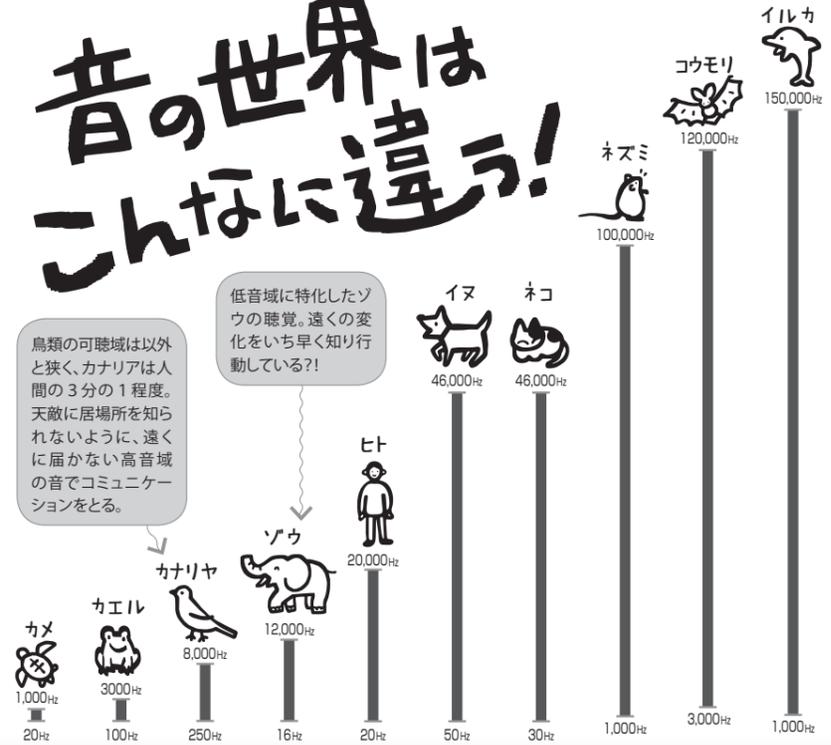


日置光久（ひおき みつひさ）・監修
東京大学大学院教育学研究科特任教授。広島大学大学院にて理科教育学、自然体験・メディア論、科学哲学等を学ぶ。広島女子大学助教授、文部科学省教科調査官・視学官等を経て、現職となる。日本シニアリングネイチャー協会理事。

陸上にくらべて視界が悪い海中で小魚やイカなどを捕まえて食べるイルカたちは、可聴域がとても広い。音で風景や獲物を見る。

イラスト／井上みさお
構成・文／伊東久枝

音の世界はこんなに違う！



聴こえない音でリラクゼーション？！

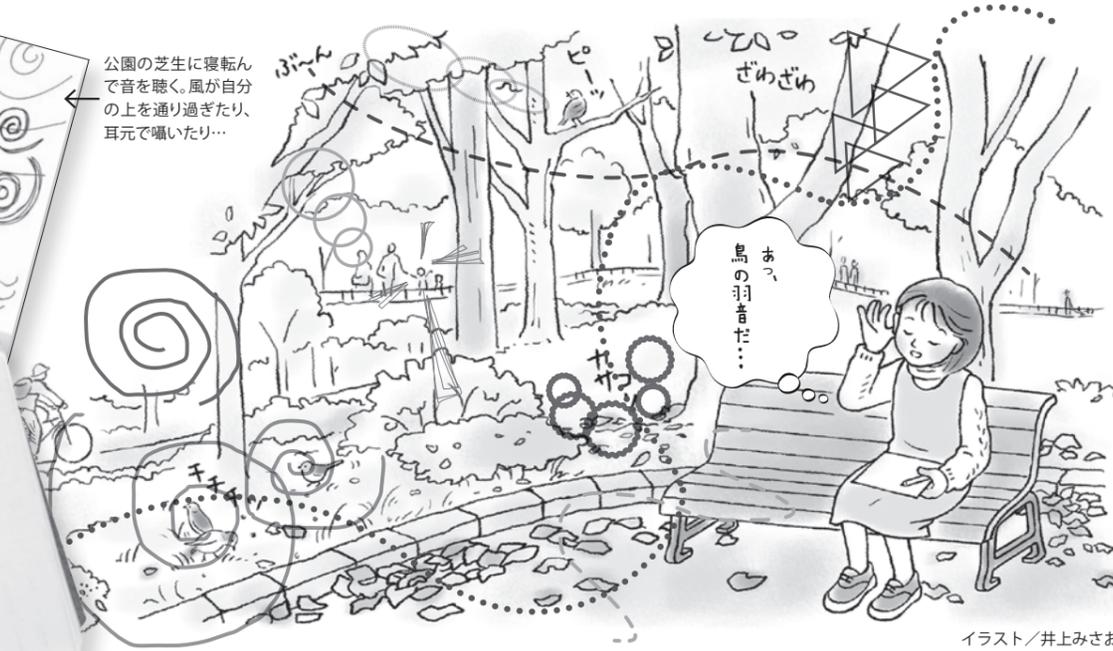
人には聴こえない低周波や高周波の音に満ちている森。それらの音に人を癒す力があるという研究が！

自然が先生！

ネイチャーゲームで体験しよう！

サウンドマップ

- 「音で自然を感じる」代表的なネイチャーゲーム。耳で自然をキャッチしてみると、意外や意外！目では確認できなかった豊かな世界に気がつきます。同じ場所でも朝と夕方、また季節によっても異なる音を発見できます。
- 【楽しみ方】
- ① 紙と筆記具を準備します。
 - ② 好きな場所で心を落ち着かせ、周りから聞こえてくる「音」に集中します。
 - ③ 紙の中央を自分のいる場所として、周りから聞こえた音のイメージを記号化し、方向や大きさを意識しながら紙に記入していきます。音の記号は自分流で、自由に描きましょう。
 - ④ 5〜10分くらい続けると、最初は気づかなかったいろいろな音が聴こえてきたりします。

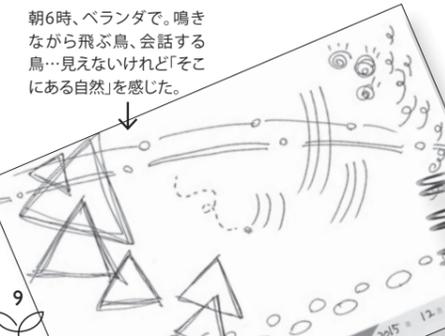


イラスト／井上みさお

ネイチャーゲームとは

1979年に米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネルにより発表された活動です。見る・聞く・触る・かぐなどの感覚をつかって、自然を楽しむ、自然と仲良くなるためのプログラムです。

朝6時、ベランダで。鳴きながら飛ぶ鳥、会話する鳥…見えないけれど「そこにある自然」を感じた。



山開き直前の富士山頂上にて。意外にも音がほとんど無い世界に感動した瞬間。→

公園の芝生に寝転んで音を聴く。風が自分の上を通り過ぎたり、耳元で囁いたり…



ジョセフ・コーネルの 課外授業

「シェアリングネイチャーライフ」をひも解くコーナーです。ネイチャーゲームの創始者J・コーネルの講演録から未来に伝えていきたい言葉をピックアップしてご紹介します。



石に話しかけるのは…
心地悪い?!

私たちは、考え方が違ったり、自分のやり方を受け入れてくれない人に出会ったとき、相手に分かってもらおうと、新たな視点に気づいて欲しいと、多弁に説明しがちです。けれどそのような場合は、無理矢理自分のやり方を押し付けるのではなく、数歩退き、相手が受け入れられる方法を考えることが大切です。

たとえば、科学的に物事をとらえる人は、石や木に話しかけるのは心地が悪いようです。その場合は、知識的な側面に重点を置いてプログラムを構成します。〈コウモリとガ〉や〈自然へのインタビュー〉のアクティビティには、科学的な思考や観察ができるチョイスを与えておきましょう。〈木をつくろう〉や〈動物交差点〉などのネイチャーゲームを行うことで、子どもたちに科学的な知識が効果的に身に付くことを彼ら自身が気づけば、強制しなくても私たちの手法を認めるはずですよ。

エデュケーション（教育）の意味を多くの人は「教える」と思っています。しかしその語源は、ギリシャ語の「引き出す」という言葉。大切なのは、相手のこれまでの経験を否定せずに、そこに新たなものを加えていくことですよ。

Joseph Cornell
1950年米国生まれ。野外活動インストラクターを経て1979年「Sharing Nature with Children」発表。以後、世界的なナチュラルリストとして活躍。当協会名誉会長。

第26回全国ネイチャーゲーム研究大会

公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会

ホントに
でっかいから
見に来て!!

申し込み
受付中!!

in 北海道 2016

平成28年6月3日(金)～6月5日(日) 2泊3日

2016年の研究大会は、でっかい自然とふれあえる初夏の「北海道」に決定!
全国の仲間たちに「北海道らしい魅力にあふれた自然」に出会ってほしい!
そんな想いを込めて多彩なワークショップをご用意。申込みはお早めに!

kenkyutaiikai@naturegame.or.jp

ネイチャーなグッズ そろってます!

聴診器で木の音を聴いてみよう!
手作りバードコールで鳥とお話してみよう!
街でも森でも自然を楽しむグッズがいっぱい!

木の音を聞くならコレ!
聴診器 ¥2,367(税込)



<http://www.naturegame.or.jp/shop/>

前を向け。未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。若い君たちの可能性こそが未来だ。

スポーツは育てることができる。

toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN

toto・BIGの収益は、未来のメダリストの発掘・育成に役立てられています。

サイズは 36 x 50 cm

スズメの美しさに驚き!!

生きている木を動かすってこんなに大変...

いのちの音にみんながおどろく!!

www.toto-dream.com © 2016 未来の夢の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。私営会も受け取れません。運営・販売: 独立行政法人日本スポーツ振興センター



“ネイチャーゲームの目線で
写真を撮る”



福井県の
ネイチャーフォトグラファー
林 昌尚さん

2014年に日経ナショナルジオグラフィック写真賞のネイチャー部門で、最優秀賞をいただきました。じつは、その写真「待ち伏せ」は自宅の池にいたへびを撮ったものです。とても幻想的だと言われますが、特別な細工はせず、身近な自然のなかで出会った感動の瞬間を切り取ったものです。

私は以前森林組合で働いていたのですが、「治山治水」の名

目のもと、健全に育ちにくい高地にまで、杉などを植林することがありました。そのようなことに、ネイチャーゲームを学んで「何か違う!」と感じ始めました。自然に対しての問題意識が強くなった気がします。

そして、家の庭や裏山でも今まで見えていなかった自然のありのままの姿が目に見え込んでくるようになりました。報道で見るような雄大な自然を求めて遠くまで行かなくても、身近な環境を覗いてみるだけで、とても速いペースで環境が変化していることに気づきます。

身近な自然が「今、この瞬間に生きている場所」であり、一番大切な場所であるはず。その場所で、昨年まで生息していた生物がいなくなるなど、多くの変化が起きています。

私が写真の世界に入ったきっかけは、7年前、絶滅危惧種となっている世界最小のハッチョ



身近な自然が 変化するスピードが とてつもなく早い

ウトンボと出会ったことです。その後も撮影を通して新しい発見や感動に出会ってきました。こうして「自ら感じた瞬間を切り取った」写真を見てもらうことで、同じような驚きや面白さを感じてもらえたり。そして、自然に興味をもつ人を増やしたいと、活動をしています。

写真で自然案内人!*

イラスト/初澤久美 取材/佐々木香織

アンケートが
投稿しやすくなりました

アンケートに答えて
シェアリングネイチャー
グッズをゲットしよう

Present

応募締め切り:1月15日

アンケートは...
◆HPトップページから
<http://www.naturegame.or.jp/>
◆メール・FAXでも
sasaki@naturegame.or.jp
FAX 03-5363-6013

メール・FAXの場合は下記をご記入ください
【アンケート項目】
1. お名前 2. ご住所(会員番号) 3. 本誌の評価(A.とても良い/B.良い/C.普通/D.良くない) 4. 良かったコーナー 5. プレゼント希望(①/②/③) 6. ご意見・ご要望

① ワイルドバード・カレンダー2016 2名様
日本各地の野鳥が月替わりで楽しめます! 2月には、上記『SNL仲間たち』でご紹介した林昌尚さんが撮ったスズメの写真が収録されています。
定価:1,512円(日本野鳥の会)

② おおぶじひっこし大作戦 2名様
特集で取材をさせていただいた塚本こなみさんの体験を描いた絵本。大フジの移植ストーリーが、樹木医の目線でいかに描かれています。
定価:1,404円(福音館書店)

③ 聴診器 1名様
医療機関で目にする聴診器。シェアリングネイチャーではもちろん自然の中で使います! 木の幹、地面、葉っぱ...身の周りの自然が発している音に耳を澄ませてみよう!
定価:2,367円(ネイチャーゲームクラブ)

効率の
かわりにある
優雅さ



春にむけ、本格的な冬到来のまえに庭いじりを

すりガラスや障子越しの光は、森の木陰のようにやさしく揺らぐ。影の美しさを、日本の家から教えてもらった

なんにもしない アウトドア



庭いじり

築60年の古い家に引っ越しをした。
木枠のガラス窓や建具、鉛色になった廊下…。
木が大切にされている造りに
そしてなにより縁側に惹かれ、この家に決めた。
縁側に佇むときの、内でも外でもない不思議な心地。
境界を曖昧にする空間は
風や光をよびこみ、季節のうつろいを伝えてくれる。
夕暮れ、障子の玄関の丸窓に、光がつくる陰影。
その時間だけに生まれる
「暮らし」のなかの風景が美しい。
和の住まいには、いつでもどこにでも
自然を感じられる知恵と技がまつている。
マンションでの生活になれた私には
毎朝、落ち葉をはくのもひと仕事。
出掛けに、木窓のネジ鍵を閉めるにも、てんやわんや。
すこしずつ、この暮らしから
効率のかわりにある優雅さを学び
手間はいとおしさになって
家と私は、仲良くなっている。

東京とはいえ、この隙間いっぱいの家で迎える冬は
どんなに寒いことだろうとおのきつつ
この、あわいの縁側で、冬を味わいながら
庭の桜が咲く春を、待ってみたいと思う。

Yuri Yosumi profile

白百合女子大学卒。執筆、講演、ウェア開発を通し、「大自然と自分らしいスタイルでつながりたい」というメッセージを発信。山スカートの先駆者、着物着付け師としての顔ももつ。現在、フリーペーパー『山歩みち』などで連載中。著書に『一歩ずつの山歩き入門』他がある。

My Book



『デイリーアウトドア』¥1,200+税
足もとの小さな花を見つめよう、芝生で裸足になってみよう…自然と仲良く暮らすヒントを綴ったエッセイ。

